

「お口は元気の源」という言葉があります。体への入り口である口腔の健康状態は全身の疾患と密接な関係があります。また疾病をお持ちの方や、寝たきりの方の口腔ケアはとても重要であり、お口の中の環境を整えることによって誤嚥性肺炎やインフルエンザなどの感染症を予防することができます。

今回は、松阪地区歯科医師会口腔ケアステーションで活動する歯科衛生士にお話を伺いました。

インタビュー

口腔ケアステーション！ 歯科衛生士の地域活動



(一社)松阪地区歯科医師会
口腔ケアステーション
歯科衛生士
小山 恭子さん

口腔ケアステーションの活動について教えてください

平成14年に、通院できない方や寝たきりの方、施設入所の方を対象に歯科衛生士による口腔ケアステーションの活動がスタートしました。当時、この活動は全国的にも珍しく、平成14年度の患者数は延べ110人でした。その後、地域への周知が進み、需要が増え続けた結果、平成30年度には延べ4,200人と大幅に増加しました。

これだけ需要が高まったのは、早くから松阪地区の歯科医師と歯科衛生士が訪問の必要性に注目し、協力して活動を継続してきたからと感じています。

最近では「口腔ケアを受けたい」「誤嚥

性肺炎を予防したい」「口の機能や食べることを維持したい」という依頼が多くあります。また、対象となる方は重症の方が増えています。そのため、口だけでなく全身の状態をみて、その方に寄り添い関わっていくことが大事だと感じています。より専門的な医療や支援ができるよう、多職種の方とも連携し、できる限りのことをしたいと思っています。

歯科衛生士の実際の活動

歯科衛生士小山さんの訪問による口腔ケアに同行させていただきました。

「ご依頼のあったお宅には、約8年前から月2回訪問し、口腔ケアを行っています。

この日は、お口の中の状態を確認し、お口の中をきれいにした後、嚥下訓練を行いました。

「家族のお話

小山さんには長い間来てもらっていて、わからないことなども気軽に聞けるのでとても助かっています。本人も小山さんの訪問を楽しみに待っています。

小山さんのお話

歯科衛生士は口腔衛生や口腔機能の改善を図るサポートをさせていただいています。

日々の口腔ケアが一番大事ではありますが、専門職である私たちが訪問する意味は患者さんの意欲を引き出すことにもあるのかなと思います。

ケアや訓練を続けていると、自分で痰を出すなど今までできないと思っていた方ができるようになることがあります。それは本当にすごいことで、可能性の広がりを感じます。今後も、もっと需要が増えると予想されているので、一緒に活動してくれる歯科衛生士も増えてくれると嬉しいです。